

③1 こどもまんなか社会の実現 ～水道の仕組み・工事を体験！！～

受賞機関 横浜市 水道局

キーワード イベント、出前講座、広報活動、理解促進、こどもまんなか社会、官民連携、企業版ふるさと納税

全建賞審査委員会の評価ポイント

企業版ふるさと納税を活用した子ども向け模型の制作や放課後児童クラブを対象とした体験型プログラムの展開により、従来の学びにとどまらず、親しみやすさを重視した水道事業への理解促進及びPRの拡充を図るとともに、施工事業者や企業との官民連携により、新たな財源確保と持続的な仕組みを構築した点が評価された。

1. はじめに

横浜市水道局では、水道の仕組みや更新工事の重要性について、イベントに出展し、パネルや各種展示型模型を用いてPRしてきたが、十分な効果を得られていなかった。また、従来のPRは子どもにとって内容が難しく、途中で飽きてしまうといった課題があったことから、新たに子ども向けPRの拡充を図った。

2. 事業の概要

これまでは、水道工事の流れがわかる展示型の模型を活用していたが、親子連れに模型や工事の流れを説明しても、子どもの興味が持続しないと保護者にも最後まで説明ができないことがあった。そこで、説明を聞くだけでなく、子どもが5～10分程度、工事の模擬体験ができる模型を制作した。バックホウのバケットを再現したスコップ等を使い、道路の掘削から水道管の更新、道路の復旧までを体験しながら理解できる仕様となっている。



工事模型

さらに、水道工事だけでなく、水道の配水方式を理解できる水圧模型を制作した。配水池と各家庭の標高差によって、自然流下で配水する標高が低いエリアと、ポンプ場で圧送して配水する標高が高いエリアがわかるように工夫しており、自然流下では蛇口から水が出ない標高の高い家でも、途中のポンプを自分で押すことで水が出る仕組みとした。

なお、この水圧模型は、新たな財源確保を模索する中で、横浜市役所内で募集していた企業版ふるさと納税

(地方創生応援税制)に応募し、寄附対象プロジェクトとして採択された。寄附募集は、Webサイトでの周知のほか、個別の働きかけも実施し、水道関連企業4社から寄附を受け、制作費の全額を賄うことができた。

このほか、イベント出展での啓発に加え、工事現場付近の小学校向けに、施工業者主体の見学会を拡充した。また、夏休み期間中は近年の暑さにより屋外活動が難しいことから、屋内コンテンツの確保に課題を抱える放課後児童クラブ等に出向き、体験型模型を中心とした「楽しめるプログラム」を提供するなど、子ども向けPRの拡充を図った。



水圧模型

3. 事業の成果

従来から、水道の大切さや工事の必要性について、説明による「学びの場」で伝えてきたが、「楽しめる場」を展開することで、子どもの興味を引き出しながら、大人に対しても、水道の仕組みや工事について、十分に説明することができた。また、水圧模型に寄附をいただいた企業に対し、企業版ふるさと納税の仕組みを通じた税制上の優遇措置の活用と企業のCSR向上にも寄与した。

4. おわりに

PRの場を更に模索しつつ、今後は、制作した模型を行政機関や水道関連企業に貸し出し、水道局以外の機関からも、水道の仕組みや工事についてPRしていただける取組を進めていく。